若越郷土研究　三十三巻一号

新刊紹介

永平寺町史―史料編―　永平寺町編、発行昭和六十二年十一月A5版　五五五頁　図四頁　定価四、〇〇〇円

本書は、昭和五十九年三月刊の『永平寺町史』通史編の基礎となった諸史料を収載するほか、その後新たに検索、調査して得られた史料を多数含んでいる。これらは永平寺町内はもちろん県内外に広く求め、「永平寺町内文書」「永平寺町外文書」「福井県外文書」に分け、家別、年代順に編集している。

中世史料は「永平寺文書」のうち、鎌倉期の一〇点が、開山道元と二代懐奘に関する同寺独自の貴重なものである。また時代が下った戦国期のもので、庄内の名田・作職などの所有関係や在地名などの分かる諸史料が注目をひく。「本覚寺文書」は、同寺が北陸地方有数の大坊で、蓮如はじめ実如・准如など本願寺法主からの書状や消息が高く評価される。県外文書には、「東寺百合文書」の志比庄と波多野氏関係文書などが収録される。

いっぽう近世史料は、寺院関係をのぞきすべて村方の庄屋文書で、さまざまな農民生活、九頭竜川とのかかわり、交通・運輸関係のものほかに、永平寺の経営や門前に関するものが注目に値する。門前は寺役に勤仕する百姓村と普請役を負担する大工村に区分され、それらの実態を知るためには、甚だ貴重な史料である。

ところで吉田政幸町助役はじめ五名の編さん委員会のもとで、編集は代表参与松原信之・参与本川幹男・委員牧野行治・委員大原陵路の四氏が当たり、詳細な解説は松原・本川両氏が分担執筆する。本書は、さきに刊行した通史編と合わせて通算七ヵ年を費した労作であり、両編をあわせて通読することにより、全国的にも著名な永平寺町の史的分野を的確に理解し得るものと考えられる。

申し込みは、吉田郡永平寺町教育委員会、または県内各書店まで。（三上一夫記）